

「主体的・対話的で深い学び」と幼小の連携、接続

國學院大學人間開発学部初等教育学科
田村学

(文部科学省 視学委員)

学習指導要領改訂の方向性

新しい時代に必要となる資質・能力の育成と、学習評価の充実

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性の涵養

生きて働く知識・技能の習得

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

何ができるようになるか

よりよい学校教育を通じてよりよい社会を創るという目標を共有し、
社会と連携・協働しながら、未来の創り手となるために必要な知識や力を育む

「**社会に開かれた教育課程**」の実現

各学校における「**カリキュラム・マネジメント**」の実現

何を学ぶか

新しい時代に必要となる資質・能力を踏まえた
教科・科目等の新設や目標・内容の見直し

小学校の外国語教育の教科化、高校の新科目「公共（仮称）」の新設など

各教科等で育む資質・能力を明確化し、目標や内容を構造的に示す

学習内容の削減は行わない※

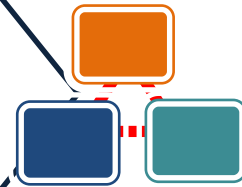
どのように学ぶか

主体的・対話的で深い学び（「**アクティブ・ラーニング**」）の視点からの学習過程の改善

生きて働く知識・技能の習得
など、新しい時代に求められる
資質・能力を育成

知識の力を削減せず、質の高い
理解を図るための学習過程
の質的改善

深い学び
対話的な学び
主体的な学び



※高校教育については、些末な事実的知識の暗記が大学入学者選抜で問われることが課題になっており、そうした点を克服するため、重要用語の整理等を含めた高大接続改革等を進める。

育成を目指す資質・能力の三つの柱

学びを人生や社会に生かそうとする
学びに向かう力・人間性等の涵養

どのように社会・世界と関わり、
よりよい人生を送るか

「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」を
総合的にとらえて構造化

何を理解しているか
何ができるか

生きて働く
知識・技能の習得

理解していること・できる
ことをどう使うか

未知の状況にも対応できる
思考力・判断力・表現力等の育成

主体的・対話的で深い学び

■主体的な学び

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。

■対話的な学び

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。

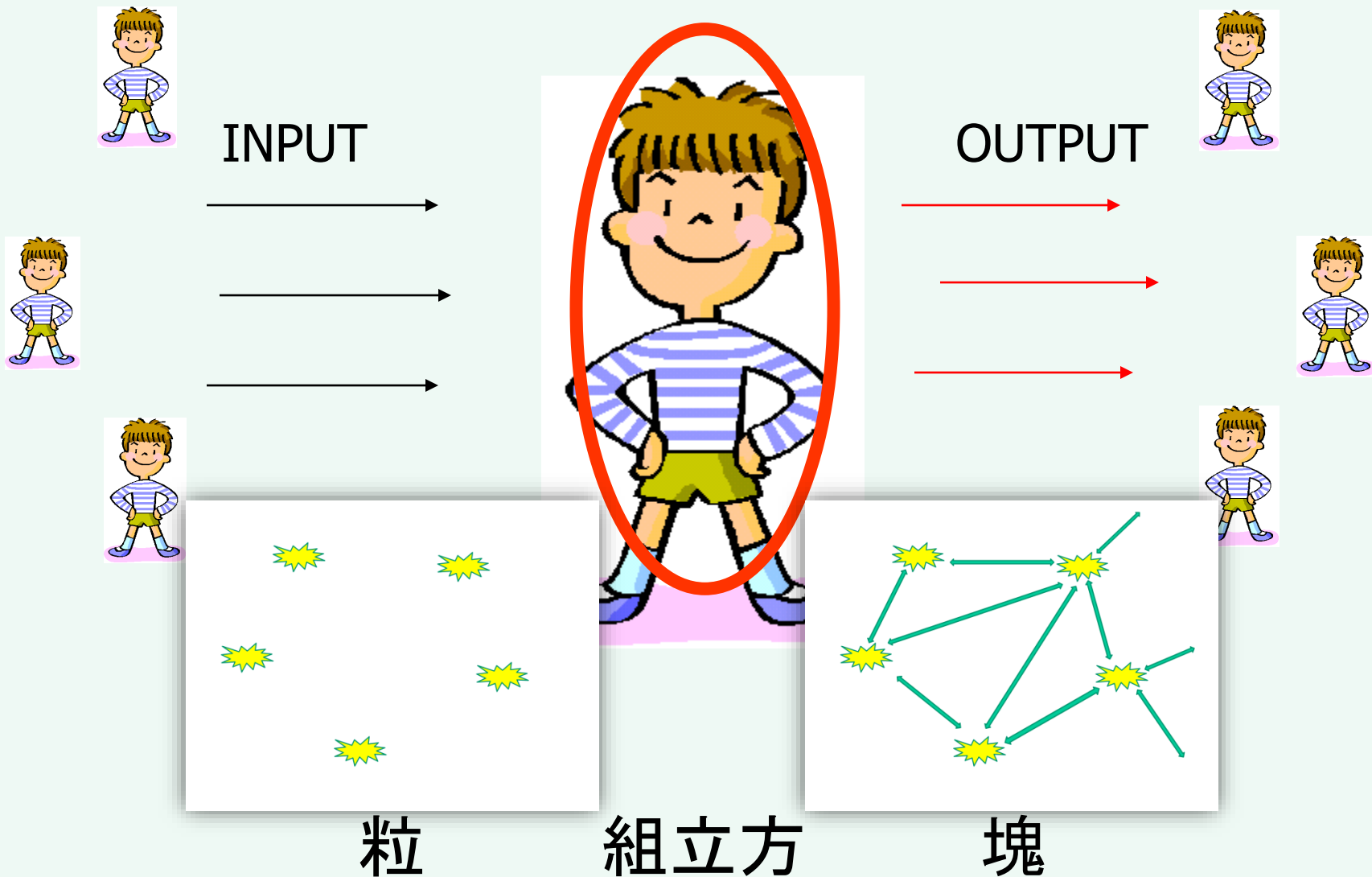
■深い学び

習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

A: 内化する



B: 外化する



主体的・対話的で深い学び

スタートカリキュラム

スタートカリキュラム

■ 1stステージ

平成20年改訂(学習指導要領解説に記述)

学校生活への適応

■ 2ndステージ

平成29年改訂前(国立教育政策研究所から資料作成)

安全・安心な学校生活

■ 3rdステージ

平成29年改訂(学習指導要領、解説に記述、国研資料作成)

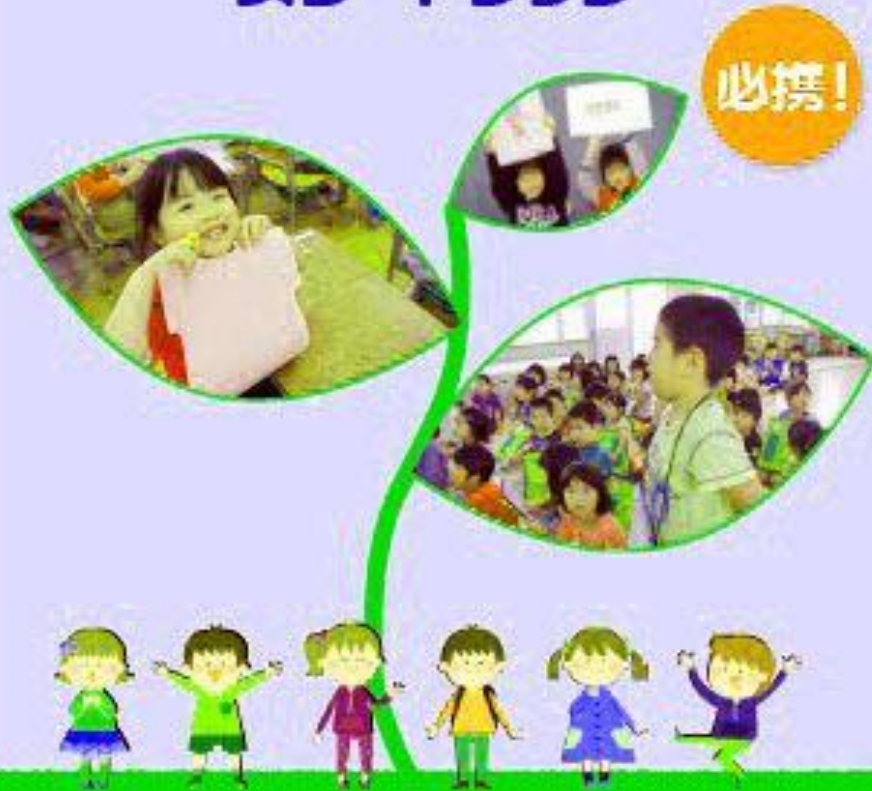
合科的・関連的な指導 弾力的な時間割の編成

(カリキュラム・マネジメント)

スタートカリキュラムの編成の仕方・進め方が分かる

スタートカリキュラム スタートブック

必携!



～ 学びの芽生えから自覚的な学びへ ～

「スタートカリキュラム
スタートセット」
(国立教育政策研究所
教育課程研究センター
平成27年2月)

スタートカリキュラムとは、小学校へ入学した子供が、幼稚園、保育所、認定こども園などの遊びや生活を通じた学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム。

今期教育課程の基準の改訂

- 幼稚園教育要領 第1章総則第3の5
第1章総則第2の3

小学校教育との接続

- 小学校学習指導要領 第1章総則第2の4の(1)
第5節生活第3の1の(4)

スタートカリキュラム

小学校学習指導要領

第1章総則第2の4の(1)

4 学校段階等間の接続

教育課程の編成に当たっては、次の事項に配慮しながら、学校段階等間の接続を図るものとする。

(1) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること。

また、低学年における教育全体において、例えば生活科において育成する自立し生活を豊かにしていくための資質・能力が、他教科等の学習においても生かされるようにするなど、教科等間の関連を積極的に図り、幼児期の教育及び中学年以降の教育との円滑な接続が図られるよう工夫すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期において自発的な活動としての遊びを通して育まれてきたことが、各教科等における学習に円滑に接続されるよう、生活科を中心に、合科的・関連的な指導や弾力的な時間割の設定など、指導の工夫や指導計画の作成を行うこと。

小学校学習指導要領

第5節生活第3の1の(4)

1 指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

(4) 他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高め、低学年における教育全体の充実を図り、中学年以降の教育へ円滑に接続できるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、幼児期における遊びを通じた総合的な学びから他教科等における学習に円滑に移行し、主体的に自己を発揮しながら、より自覚的な学びに向かうことが可能となるようにすること。その際、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。

発達や学びをつなぐ スタートカリキュラム

スタートカリキュラム導入・実践の手引き

文部科学省
国立教育政策研究所
教育課程研究センター 編著

学事出版

「発達や学びをつなぐ
スタートカリキュラム」
(国立教育政策研究所
教育課程研究センター
平成30年3月)

スタートカリキュラムの概念図

小学校低学年

スタートカリキュラム

スタートカリキュラムの実施により、幼児期の学びからの円滑な接続が図られ、児童が安心して小学校生活をスタートすることができる。また、幼児期からの学びを生かした指導が可能となり、児童が自信や意欲をもって活動し、よりよく成長していくことが期待される。



幼児教育

幼児期の終わりまでに育ってほしい幼児の具体的な姿

健康な心と体	自立心	協同性	道徳性・規範意識の芽生え	社会生活との関わり
思考力の芽生え	自然との関わり・生命尊重	数量・図形・文字等への関心・感覚	言葉による伝え合い	豊かな感性と表現

5領域

健康

人間
関係

環境

言葉

表現